

医療

大目標：キリスト教的人類愛に根差した建学の精神と、創立以来50年で培った医療技術で、誰ひとり取り残さない医療を継続します。

※テーマをクリックいただきますと詳細をご確認いただけます。

テーマ	SDGs該当目標	2024年度実績
感染症・パンデミックへの対応	 	■救急車は、2次救急まで拡大したことにより、現在は年間約10,000台以上となるペースで応需している。 ■川崎市内の不应需患者を聖マリアンナ医科大学病院で受け入れることで、川崎市外への流出を防ぎ、川崎市の救急医療の中心的な立ち位置となっている。 ■国内でも有数の集中治療医が在籍しており、重症病棟66床の受け入れも現在では90%近い数値となっている。上記のように概ね目標は達成している。
医療技術の革新 Decentralized Clinical Trial (分散型臨床試験)の標準化に向けた取り組み：遠隔診療を用いた治験スクリーニング	  	■胃癌と大腸癌を対象とした2つの企業治験において「MiROHA」を使用した遠隔治験プレスクリーニングの実装を開始した。治験候補の患者さんを遠隔診療でスクリーニングし、治験適格な患者さんを診断し、治験へ登録することができた。
動物介在療法病と闘う患者さまとその家族に寄り添い、医療現場の笑顔に貢献	 	■動物介在療法(AAT)の有効性の科学的かつ定量的、客観的な評価は、現在100件近くのデータを集積しており、今後最終評価を行う予定である。POMS2-成人用(短縮版)を用いた中間解析の評価では、怒り-敵意、混乱-当惑、抑うつ-落ち込み、疲労-無気力、緊張-不安、活気-活力、総合的気分状態得点で、統計学的な有意差をもって、AATの効果が認められた。友好では、AATの前後で統計学的な有意差は認められなかった。 ■2024年度は3代目ハクが看護師であるハンドラー2名とともに週2回のAATを行い、多くの患者さんの心のケアをおこなった。看護師不足の問題もあり、ハンドラーの増員にはいかなかったが、AATの依頼数の増加により活動日の増加を検討中である。ハンドラーの増員と活動環境の整備は引き続き今後の課題である。 ■広報活動として、ハクの活動状況を記録したビデオを作成したり、第61回日本リハビリテーション医学会学術集会など複数の学会や講演会でAATの効果を発表した。 ■管理料取得に向けた活動としては、小泉 進次郎衆議院議員・川崎 修平神奈川県議会議員に2023年春にAATの現場を見学していただき、2024年2月に厚生労働省の役員のAAT見学が実現した。今後も効果と安全性のデータの蓄積と国の関係部署へ働きかけを継続したい。